

# 新米「一番星」今年も給食で登場しています★

関東一早いといわれる新米「一番星」が収穫されました。潮来市の給食では、主食がごはんの日(月・水・金)は毎回、潮来市産ブランド米コシヒカリ「潮来あやめちゃん」を使用していますが、9月のひと月限定で極早生米「一番星」の新米を提供しています。

一番星は潮来市生まれの新品種で、茨城県オリジナル米です。学校給食センターでは、地産地消に取り組んでおり、食育推進の点からも児童生徒の皆さんに地元の食材の良さについて興味・関心を持ってもらうきっかけとなることを期待しています。

ちなみに「一番星」は、大粒でもちもちした食感、味はさっぱりしていて、冷めてからも美味しさは変わらないことが特徴です。



かわせはすい

## 川瀬巴水が描いた潮来の水辺の風景をタペストリーとトートバックに

水郷潮来のPRと水辺のまちづくりを推進するため、大正・昭和初期に活躍した浮世絵師・木版画家の川瀬巴水が描いた潮来の水辺の風景を使用し、タペストリーとトートバックを作成しました。8月3日(木)、津軽河岸あと広場 石の蔵にて、その完成発表会が行われました。作成したタペストリーは中央公民館や潮来市立図書館などに展示しておりますので、ぜひご覧ください。

潮来公民館で開催された「川瀬巴水はなぜ潮来を愛したのか」をテーマにした文化講演会の講師を務め、今回の完成発表会にも参加いただいた、茨城キリスト教大学の染谷智幸教授から、潮来市にメッセージが寄せられましたのでご紹介します。



巴水の木版画を通じて、霞ヶ浦やその周辺の水辺が持つ、美しさ豊かさを再発見しよう。これが、今回、講演やその後のシンポジウムを通して、私が潮来市民の皆さまにお伝えしたかったことです。

潮来は、多くの水路と水辺、そしてそれにつわる豊かな文化に恵まれた素敵な町です。その魅力は、昔はもちろん、今も変わらずに受け継がれています。そうした魅力をさらに増すために何をすべきか。私は、潮来市民の皆さんが、潮来の豊かな歴史・文化の再発見につとめ、それを市の内外に伝えていくことだと思います。川瀬巴水の木版画には、その潮来の豊かな歴史・文化が、美しい色彩とともに描かれています。

今回のシンポジウムでは、市民の方から国や市に対して、水質浄化をめぐるご意見がありました。今後議論を重ねて欲しいのですが、水辺には様々な生活や文化があり、それをお互いに尊重することが何よりも大切です。巴水の版画が持つ、懐かしさや暖かさは、人の心を和らげ癒すとともに、水辺が本来持っている面白さや楽しさに気付かせてくれます。巴水の版画を通じて、水辺と人はもちろん、人と人の距離も縮めて欲しいと心から願っております。

染谷智幸(茨城キリスト教大学)

